



なぞって練習

八月の十五夜であつた。明るい月光が板屋根の隙間だらけの家の中へさし込んで、狭い家の中の物が源氏の目に珍しく見えた。もう夜明けに近い時刻なのであろう。近所の家々で貧しい男たちが目をさまして高声で話すのが聞こえた。

「ああ寒い。今年こそもう高売のうまくいく自信が持てなくなつた。地方廻りもできそうでもないんだから心細いものだ。北隣さん、まあお聞きなさい」

■参考

※隙間【すきま】

(青空文庫のフリガナより)